

旭労災病院ニュース

病院情報誌 第17号 平成19年4月1日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張旭市平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

病院長就任のご挨拶

旭労災病院 院長 勝屋 弘忠



平成19年4月から旭労災病院院長に就任致しました勝屋弘忠と申します。地域連携で日頃お世話になっております先生方にとりあえずこの紙面にてご挨拶申し上げます。

私はこの3月まで名古屋市立大学大学院医学研究科危機管理医学分野教授および同大学病院麻酔科部長、集中治療部長として勤務しておりました。また副院長として4年間臨床研修や安全管理に携わって参りました。地域医療に関しましては、愛知県医師会救急委員会委員および名古屋市消防局救急指導医を10数年、愛知県医療審議会委員および医療計画部会委員を数年勤めるなど主に救急医療領域で地域との関わりを持って参りました。

ご承知のごとく、現在急激な医療改革が行われつつあり、それに伴う歪みも随所に出て来ていると認識しております。このような時だからこそ、現場で医療を支えている医師は、開業医・勤務医を問わず協力して、国民・市民から信頼される医療を取り戻すあるいは維持することが喫緊の急務であることは論を俟ちません。

幸い旭労災病院では平成17年1月から地域の医師の方々と当院との病診連携をよりスムーズにする為にこの『旭労災病院ニュース』が発刊されていると聞いております。

この連携ニュースが地域の診療所等と当院との真の意味での情報交換・交流の場となるように、私どもも努力を致す所存です。前院長が創刊時の挨拶で述べていますように、ぜひとも先生方のご要望やご叱責あるいは所感なども寄せて頂き、このニュースを地域と当院を結ぶ双方向性のツールとして育てて頂きますようお願い致しまして就任のご挨拶とさせていただきます。これからなにとぞよろしくお願い申し上げます。

退任にあたって

旭労災病院 前院長・顧問 大野 良之



この度、五年の任期を終えて院長を定年退職し、顧問を拝命しました。

平成十四年四月に院長に就任させて頂いた後は、各年度に一つの目標を達成することを心に過ごして参りました。すなわち、達成すべき目標は、平成十四年度が「院外処方」の実施、平成十五年度が「新臨床医研修制度下の研修指定病院」の認可獲得、平成十六年度が「結核病床の廃止」とそれによる「急性期型病院」への本格的機能特化、平成十七年度が「病院機能評価機構受審」による評価認定の獲得、平成十八年度が「外科系・内科系医師と研修医の常駐する救急外来体制」の始動でありました。今振り返ってみますと、これら五つの目標はご存じのようにすべて無事達成でき、本院の医療基盤がより一層強化されたものと思料いたしております。目標達成には、当院職員一同と地域の関係各位の皆様のご協力があつてこそと、心より感謝しております。

五年間を通じては、病診・病病連携の強化を常に心して参りました。これに対しては病診連携室の全般的機能強化に加え、業務時間の延長、直通電話・ファックスのフリーダイヤル化、本連携ニュースの発行などを実施し、また地域医師会の先生方との恒例の懇談会（千成会）への医師達の積極的出席を勧奨しました。これらは「医師の顔が見える連携」、「患者さんが安心する連携」、「紹介した医師も満足する連携」という基本方針に基づくもので、地域連携ネットワーク化が一層図られてきたものと考えます。また、病院機能の向上に対しては働く職員一同の協同意識の熟成と機器（CT・MRI等）の更新・整備を行い、医師と研修医の着実な確保を行いました。平成十八年度の研修医は後期研修医を含めて九名が在籍、十九年度には一年次研修医五名が新たに加わるようになっております。この研修医の着実な確保のためには当院の医師全員が極めて熱心に、きめ細かな指導に努力していただき、誠に感謝に耐えません。

なお、当院はご存じの通りアスベスト疾患ブロックセンターであり、機器更新を続け、病院の増改築が機構本部で検討されており、将来に涉って存続・発展することが約束されております。なにとぞ関係各位の皆様の今後ますますのご支援を心から祈念いたします。

最後に、在職中に公私にわたり賜りました数々のご恩情、ご指導、ご支援、ご厚誼に対して心から御礼申し上げます。